

単色のトーン別嗜好について (No1)

On the study of the taste for separated tones of the unicolors.

市 原 康 孝

主 な 内 容

- 1 まえがき
- 2 嗜好調査の方法
- 3 嗜好調査の結果
- 4 むすび

1 ま え が き

今まで多くの色彩嗜好調査の結果が発表されたが、そのほとんどが特定の色相（例えば純色を主としたもの等）によるものだけで、色数も少なく日常生活、教育、生産の分野において実際的でなく、むしろ自由であるべきはずの色彩嗜好が抽象的で観念化されてきた感じがあるときえいわれている。

これには一つの理由として青色系や、それにともなう色紙の規格や生産面に隘路があり豊富な色数をもつ色紙がなかなか入手できず一般化されなかったためであると考えられる。

そうしたなかで最近、日本色彩研究所から151色のカラーハーモニックカード等が市販されたことは関係者にとってきわめて喜ばしいことである。こうしたことから色彩の嗜好をより具体的にとりあげその傾向を更に綜合

的に研究しようと思ったわけである。

色彩嗜好の傾向が数度の調査程度で実態をつかむことは困難であるので少なくとも10年は継続したいと思っている。又このテーマの展開として次の関連題目を併せて研究してゆく予定である。

- 1, 単色嗜好の傾向と複数配色の関連性
- 2, 生活環境と嗜好色について

2 調 査 の 方 法

(1) 調査色票 (P, C, C, Sハーモニックカード日本色彩研究所発行151色)

上記の色票(色紙)から次の80色を選び調査用色紙とした。

色 相 — 10色相

トーン — 8トーン (v・dp・b・dk・d・l・p・g)

表(1) 調査に使った色名表 (P.C.C.Sハーモニックカード)

H T	2 R		5 O		8 Y		10YG	12G	14BG	16 gB	19 pB	22P	24RP
	R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP			
v トーン	4.0R 4.5/14	5.0YR 6.5/14	5.5Y 8.5/14	5.0GY 7.0/12	5.0G 5.0/10	5.0BG 4.5/10	5.0B 4.0/11	6.0PB 3.0/12	7.5P 3.5/12	7.5RP 4.0/1.3			
dp トーン	4.0R 3.5/10	5.0YR 5.0/10	5.5Y 6.5/9	5.0GY 5.0/8	5.0G 3.5/7	5.0BG 3.5/7	5.0B 3.0/8	6.0PB 2.4/8	7.5P 2.4/8	7.5RP 3.0/9			
b トーン	4.0R 6.0/10	5.0YR 7.5/10	5.5Y 8.5/9	5.0GY 8.0/8	5.0G 6.5/7	5.0BG 6.0/7	5.0B 5.5/8	6.0PB 5.0/8	7.5P 5.0/8	7.5RP 5.5/9			
dk トーン	4.0R 3.0/6	5.0YR 3.5/6	5.5Y 4.5/5	5.0GY 3.5/4	5.0G 3.0/4	5.0BG 3.0/4	5.0B 2.4/5	20V 9.0PB1.7/5	7.5P 1.7/5	7.5RP 2.4/5			
d トーン	4.0R 5.0/6	5.0YR 6.5/6	5.5Y 7.0/5	5.0GY 6.5/4	5.0G 5.5/4	5.0BG 5.0/4	5.0B 4.5/5	20V 9.0PB4.0/5	7.5P 4.5/5	7.5RP 4.5/5			
l トーン	4.0R 7.5/6	5.0YR 8.0/6	5.5Y 9.0/5	5.0GY 8.5/4	5.0G 7.5/4	5.0BG 7.0/4	5.0B 7.0/5	90.PB 6.0PB65/5	7.5P 7.0/5	7.5RP 7.0/5			
p トーン	4.0R 8.5/2	5.0YR 8.5/2	5.5Y 9.0/1.5	5.0GY 8.5/1.5	5.0G 8.5/1.5	5.0BG 8.0/1.5	5.0B 8.0/2	20V 9.0PB8.0/2	7.5P 8.0/2	7.5RP 8.0/2			
g トーン	4.0R 6.5/2	5.0YR 2.4/2	5.5Y 7.5/1.5	5.0GY 7.0/1.5	5.0G 6.5/1.5	5.0BG 6.0/1.5	5.0B 6.0/2	20V 9.0PB5.5/2	7.5P 6.0/2	7.5RP 6.0/2			

H—P.C.C.S色相番号

H₁及び枠内記号—該当マンセル記号

(2) 調査用紙の形式

表 (2) 調査用紙の形式

単色の嗜好調査		コース氏名										
() トーン		R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP	
特に好き + 2												
好き + 1												
どちらでもよい 0												
嫌い - 1												
特に嫌い - 2												

上表のように単色の嗜好を0を中心に+・-2までとり、色相別に5段階のいずれかひとつに○印を記入させた。集計にあたっては+1と+2を又-1と-2をそれぞれ合計し3段階に集約してみた。

(3) 調査の場所

南北に面した約35坪の普通教室で雨天以外は照明を必要としないが色紙をごく自然なかたちの状態でながめるという立場から点灯した。光源は蛍光灯FL40W, 9本, FL40D, 9本計18本で交互に配置されている。

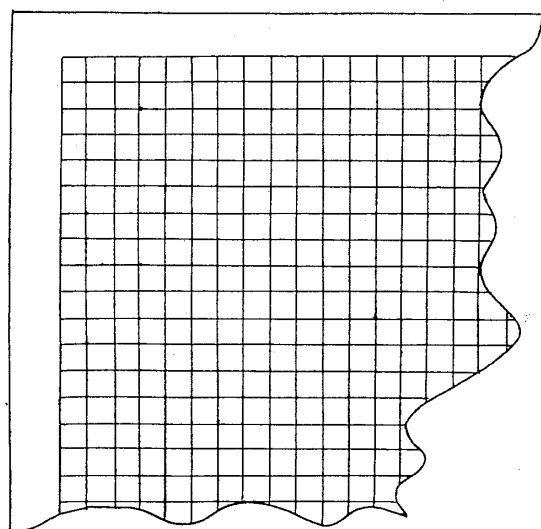
調査日, 昭和42年11月16日 (午前10時~12時) 晴天。

(4) 調査人数

大分県立芸術短期大学美術科学生
 服飾デザイン専攻 1年生 24名 (女) 計 72名
 生活芸術専攻 1年生 48名 (女)

(5) 色紙の台紙

(図1) 色紙調査用台紙

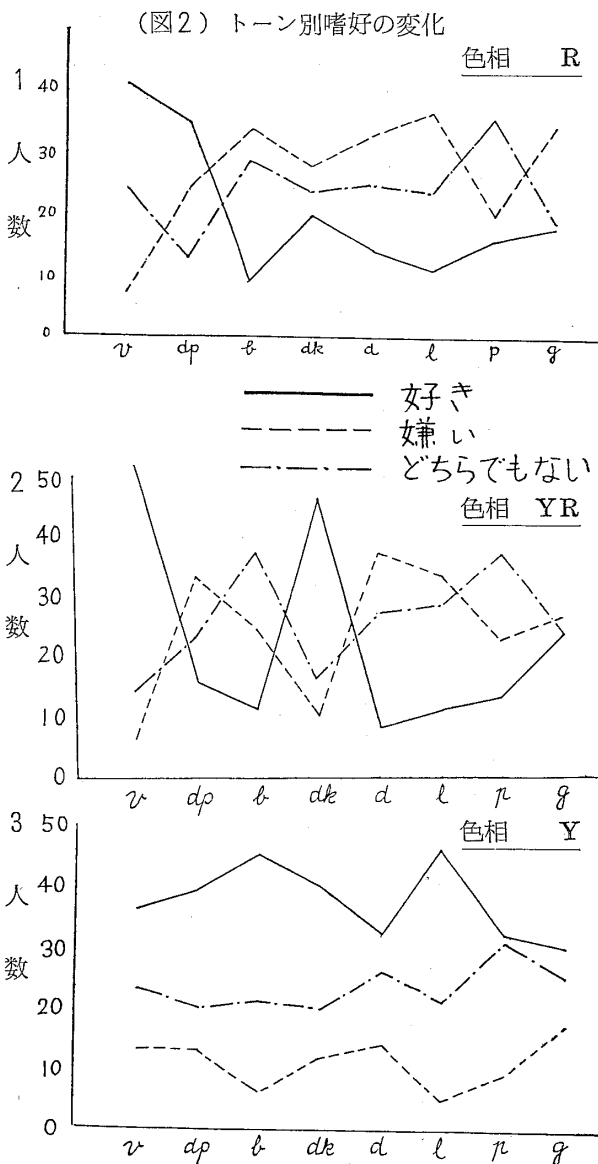


3mm の方眼

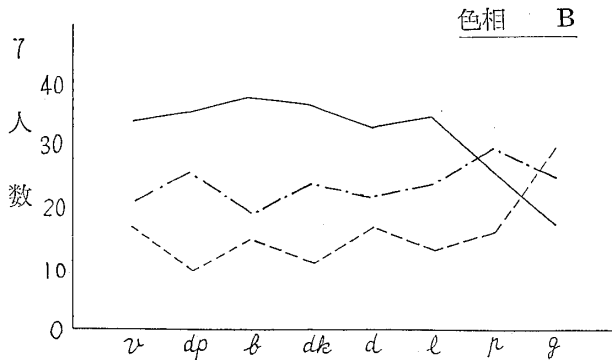
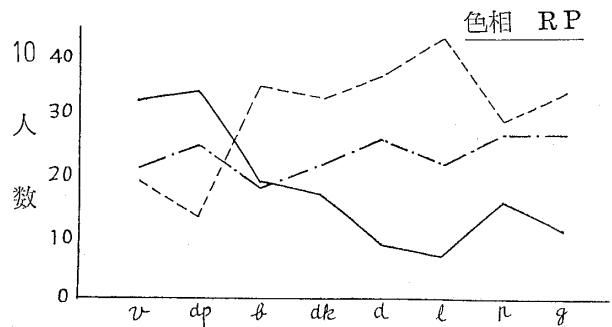
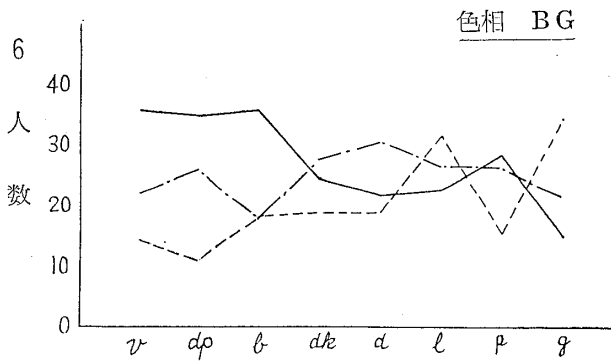
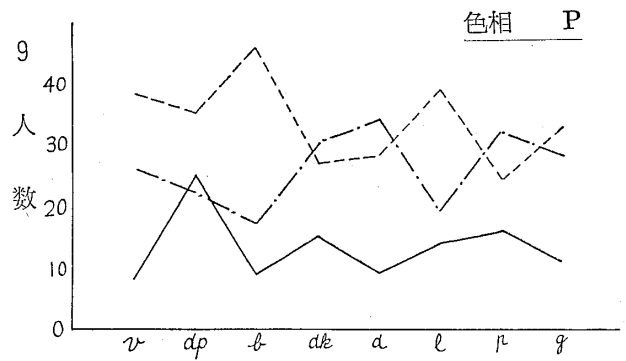
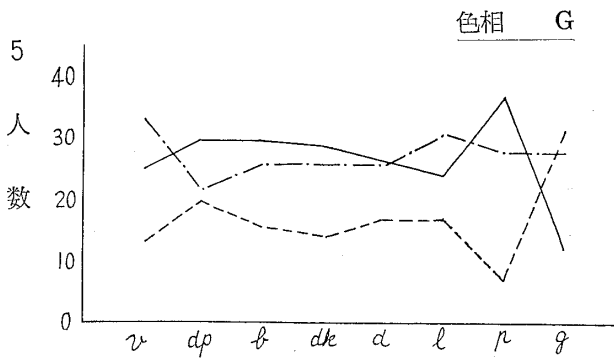
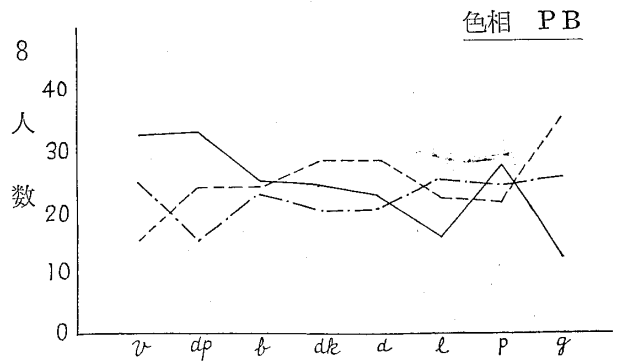
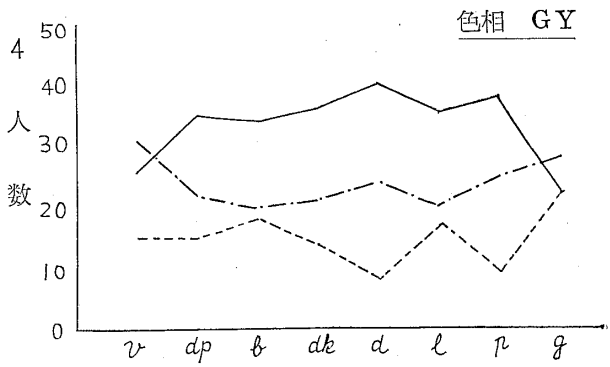
台紙の地色は普通 中程度の灰色の台紙が用いられるが、トーン別色紙には地色とまぎらわしい色が多くなるので3mm方眼をワラバン紙に黒インクでとう写印刷し地色にコントラスト感をあたえ識別を明瞭にしてみた。

3 調査の結果

(1) トーン別嗜好の変化



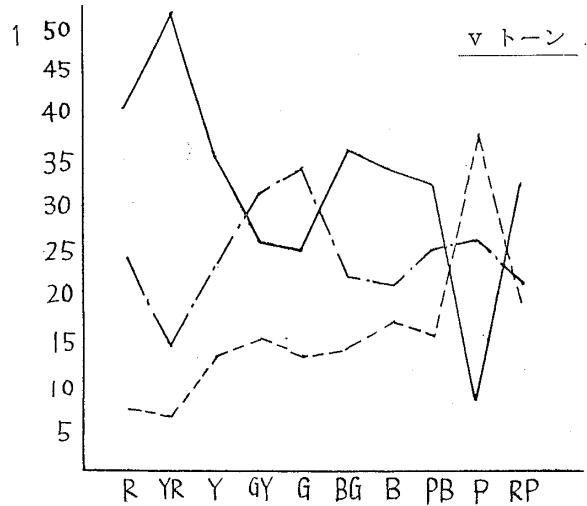
単色のトーン別嗜好について

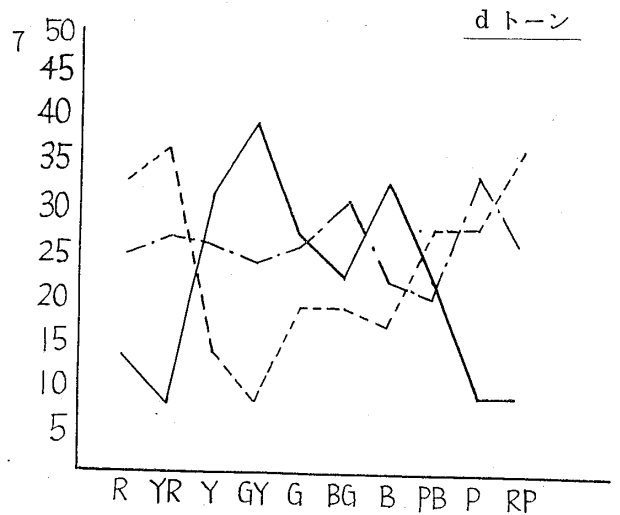
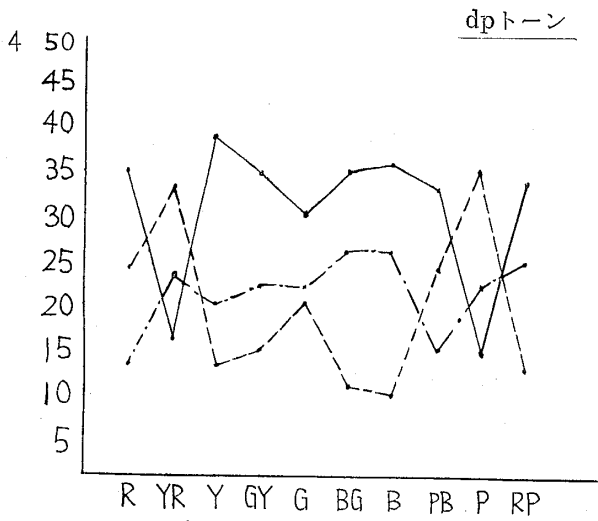
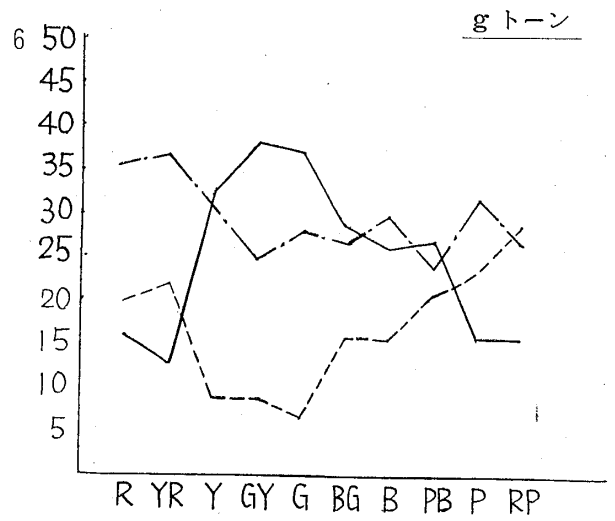
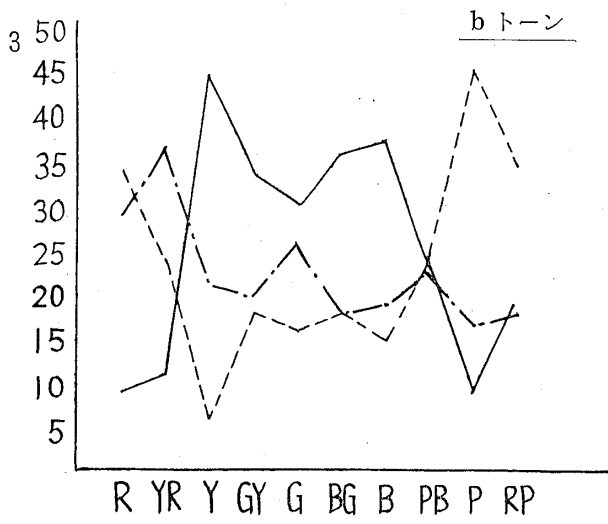
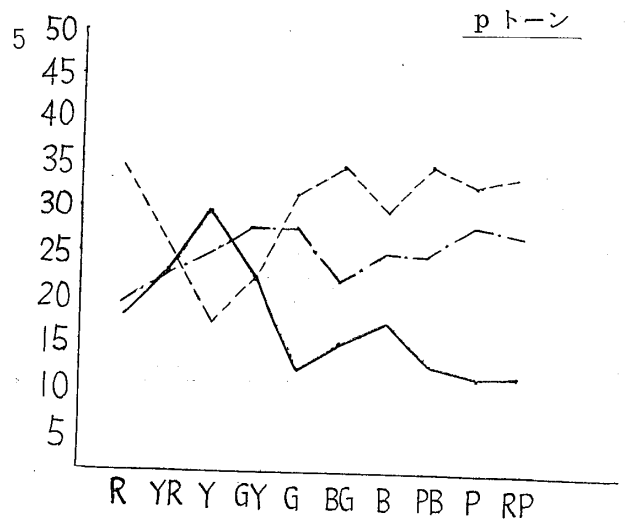
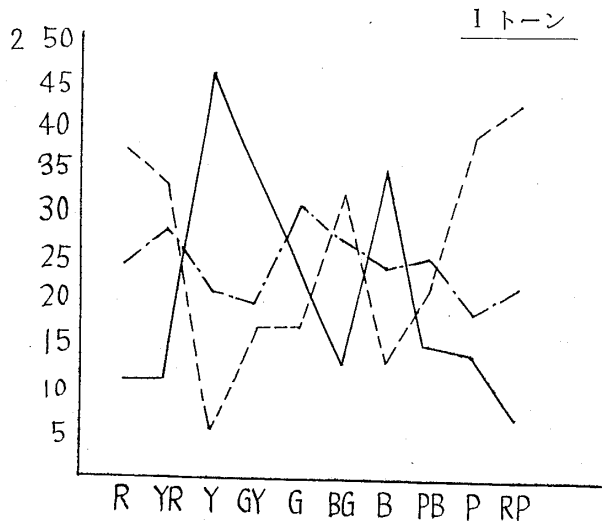


図(2)は10色相がトーン別の場合嗜好にどのような変化を示すか人数を縦軸として図示してみた。

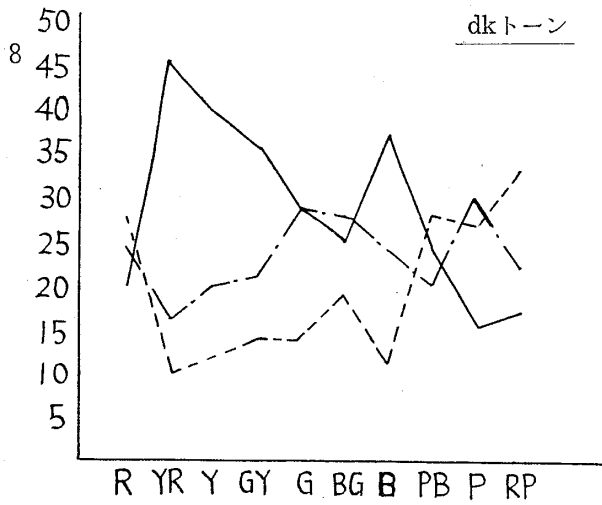
(2) 色相別による嗜好の変化

図(3) 色相別による嗜好の変化





単色のトーン別嗜好について



図(3)は各トーンが色相別で嗜好にどのような変化を示すかを図示してみた。

(3) 色相別嗜好率 (好きな場合) と (嫌いな場合)

表(3) 色相 (H) 別嗜好率 (A) - (好きな場合)

調査人員 72名 (数字は人数)

% \ H	R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP
79 } 70		v -52								
69 } 60		dk -46	l -46 b -45							
59 } 50	v -41		dk -40 dp -39 v -36	d -40 p -38 dk -36	p -37	v -36 b -36	b -38 bk -37 dp -36			
49 } 45	dp -35		d -32 p -32	dp -35 l -35 b -34		dp -35	l -35 v -34 d -33	dp -33 v -32		dp -34 v -32

表(4) 色相 (H) 別嗜好率 (B) - (嫌いな場合)

調査人員 72名 (数字は人数)

% \ H	R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP
69 } 60									b -46	l -43
59 } 50	l -37	d -37							l -39 v -38	d -37
49 } 45	d -33 g -35	b -34 dp -33 l -33			g -32	g -35 l -32		g -35	dp -35 g -33	b -35 g -34 dk -33

表(3)(4)は図(2)を好きな色の場合と嫌いな色の場合とに分けて色相別にトーンを分類し人数を示し嗜好率に段階を加えた。すべて嗜好率50%を一応のめやすとしたが、これをやや下まわる嗜好率を示す色が多いので、下限を45%までとしそれ以下は対象外とした。

(4) トーン別嗜好率 (好きな場合) と (嫌いな場合)

表(5) トーン(T)別嗜好率(A)― (好きな場合) 調査人員72名 (数字は人数)

%	T	v	dp	b	dk	d	l	p	g
79		YR-52							
>									
70									
69				Y -45	YR-46		Y -46		
>									
60									
59		R -41 Y -36 BG-36	Y -39 B -36	B -38 BG-36	Y -40 B -37 GY-36	GY-40		GY-38 G -37	
>									
50									
49		B -34 PB-32 RP-32	R -35 GY-35 BG-35 RP-34 PB-33	GY-34		B -33 Y -32	GY-35 B -35		
>									
45									

表(6) トーン(T)別嗜好率(B)― (嫌いな場合) 調査人員72名 (数字は人数)

%	T	v	dp	b	dk	d	l	p	g
69				P -46			RP-43		
>									
60									
59		P -38				YR-37 RP-37	P -39 R -37		
>									
50									
49			P -35 YR-33	RP-35 R -34	RP-33	R -33	YR-33 BG-32		R -35 BG-35 PB-35 RP-34 P -33 G -32
>									
45									

表(5) (6) はトーン別に色相の嗜好のかたよりを好きな色の場合と嫌いな色の場合とで表示してみた。

以上の表ならびに図をもとに色相別、トーン別の嗜好傾向は大よそ次のようであった。

1) 色相別にみると特に嗜好の高いものとして Y・YR・B の色相で6~7トーンにわたっている。特に嫌われているものは P・RP の色相で5~6トーンにわたっている。特殊なものとして色相 YR は v・dk トーンについては調査色紙80色のなかで高位の嗜好を示すが、これ以外のトーンはだいたい嫌われているようである。又色相 G は好き嫌いのかたよりがなく、あいまいであるので嗜好の中性色といえよう。

2) トーン別にみると、v・dp トーンは比較的多色相にわたり好まれている。l・g トーンは特に嫌われている。P トーンは色相 G と同様あいまいで嗜好の中性色といえるだろう。

3) 好き、嫌い、どちらでもないの項目別の人数がほぼ同数となるトーンの最も多い色相は PB で、これに次ぐものとして色相 G がある。単色の場合好悪あいなかばして判断に迷う色であろうか。




































































4) 図(2) のどちらでもないを表わす折れ線の変化をみると、だいたいどの色相も人数20~30の範囲内におさまっているが、色相 R 及び色相 YR は動きが急激で異質である。これはトーンによって嗜好の変化がはげしく変る R・YR 独自の特徴を示すものと考えられる。

1) ~4) までのなかで3) の色相 PB 及び G において項目別の人数がたまたま今回に限りほぼ同数となったのか、それとも何かの要因によるものか興味と関心をもって次回の調査にあたりたいと思っている。同じことが4) の色相 R 及び YR 以外の各色相において折れ線がだいたい20~30人の巾の中におさまっていることについてもいえる。

単色のトーン別嗜好について

(5) 単色80色の嗜好順位

表(7) 単色80色の嗜好順位

T \ H	v	dp	b	dk	d	l	p	g
R	 4	 10		 (8)	 (5)			 (6)
YR	 1	 (8)	 (7)	 2	 (5)	 (8)		
Y	 9	 6	 3	 5	 13	 2	 13	
GY	 10	 11	 9	 5	 10	 7		
G	 9	 10	 9	 9	 9		 8	 (9)
BG	 9	 10	 9	 9	 9	 (9)		 (6)
B	 11	 9	 7	 8	 12	 10		
PB	 13	 12						 (6)
P	 (4)	 (6)	 (1)			 (3)		 (8)
RP	 13	 11	 (6)	 (8)	 (5)	 (2)		 (7)

数字は好きな順位
() の数字は嫌いな順位

表(7)は80色を好きな色、嫌いな色についてそれぞれ順位を具体的に色紙を貼ったものである。

好まれる色の順位

- 1 YR-v
- 2 YR-dk・Y-l
- 3 Y-b
- 4 R-v
- 5 Y-dk・GY-d
- 6 Y-dp
- 7 GY-p・B-b
- 8 G-p・B-dk
- 9 Y-v・GY-dk・BG-b・B-dp・BG-v
- 10 R-dp・GY-dp・GY-l・BG-dp・B-l

嫌われる色の順位

- 1 P-b
- 2 RP-l
- 3 P-l
- 4 P-v
- 5 RP-d・YR-d・R-l
- 6 R-g・BG-g・PB-g・P-dp・RP-b
- 7 YR-b・RP-g
- 8 R-d・YR-dp・YR-l・P-g・RP-dk
- 9 G-g・BG-l

4 む す び

調査様式、調査回数等、条件や内容の上でいたるところ不備な点が多かったが、今回の調査結果は小規模ながら一時点での色彩嗜好の傾向をある程度示すものと信じている。今後一層工夫と改善をこらし年毎の資料と調査を重ねてテーマを追求したいと思う。尚研究途上多くの障害に突き当たるのが当然予想されるが、この点については先輩諸氏のご教示を衷心よりお願いしたいものである。